

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

自宅で元気に暮らしていくために

代々木訪問看護ステーション ー訪問リハビリー

代々木訪問看護ステーションでは、病気や怪我、老化などにより、心身に何らかの障害を持った人のうち、外出が困難な方などに対して、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士などが居宅に訪問します。
そして状況に応じた訓練や精神的サポートなどを実施することで、日常生活の自立やその人らしい生活を送ってもらうための支援を行っています。

理学療法士

井上聡美

自宅での生活が
リハビリ



病院でのリハビリテーション(以下、リハビリ)を終えて自宅に帰り、毎日のように行っていたリハビリがなくなってしまう、もしくは少なくなってしまうことにより、筋力や体力が落ちてしまふのではないかと不安に感じることがあります。
訪問リハビリを利用しても、病院で受けるのと比べて頻度や時間が短くなってしまいます。
ただ、私は自宅で生活すること自体がリハビリになると考えています。
訪問リハビリは、実際の生活の中で行えるため、入浴や更衣などの日常生活上の動作を生活環境で確認・練習ができ、必要に応じて住環境整備の調整や福祉用具などの提案ができます。

「人によって手のつき方が違い、歩きにくい人と歩きやすい人がいる。井上さんは歩きやすいんです」と語る近藤英美子さん(左)と、井上理学療法士(右)



身の回りのことを可能な限り自分で行えるように支援したり、または、自主的にできる運動などを提案することで、生活の中の活動量が増え、体力や筋力の維持・向上につながります。
利用者様に合わせてその人らしい生活とは何か、元気に暮らしていくためにはどうしていくべきかを考えながら、リハビリを提供させていただいています。
連携を通じて支援
訪問看護ステーションから訪問していることで、利用者様の状態をすぐ看護師に相談できま

患者さんの声

近藤英美子さん (84歳、女性)

2008年9月に脳梗塞発症。2009年3月より、代々木訪問看護ステーションから訪問看護と訪問リハビリを受けはじめ、現在、代々木病院からの訪問診療と、週1回ずつ訪問リハビリと通所リハビリを、週2回訪問看護を利用しています。
自宅ではご主人の吉則(よしのり)さん(80歳)が英美子さんの介護をしています。
利用者の生活についてリハビリからの視点だけでなく、看護師からの視点でも、意見を聞くことができ、利用者様がより良い生活を送るために意見交換をしながら行っています。
これからも看護師だけでなく、医師やケアマネジャー、訪問ヘルパーなど在宅に関わるスタッフと連携をとりながら、利用者様が自宅より良い生活をおくれるよう支援していきたいと思っています。

健康まつり2012

入場無料

- 日時 10月13日(土)正午~午後3時 小雨決行
場所 代々木病院
企画 木工教室(無料、CDラック、イス、小物入れ)
対象年齢は小学3年~中学3年。数に限りがあります。
古典落語、ミニコンサートなど
模擬店 包丁とぎ、フリーマーケット、スーパーボールすくい、福引き、輪投げ、体力・健康測定、焼きそば、わたあめ、お好み焼き、フランクフルト、串焼き、とん汁、五目御飯など(内容は変更・追加があります)
★健友会理事長・山田智医師による講演「地域で明るく生きていくために」

主催 健康まつり実行委員会

1カ月間は動けず、ようやく車イスに乗れても、一人で姿勢を支えることが難しかったのですが、今ではイスに腰掛けられるところまで回復しています。このように座っているなんて夢みたい」と英美子さんは声を弾ませていました。
英美子さんは担当の井上聡美さんについて「私にとっては最高のリハビリさん」ありがたいと思っています。だから休まないでよ」と、井上さんが帰る時には念を押しています。

生活に広がりを持てるようリハビリで支援

代々木訪問看護ステーション 所長 小林隆子

リハビリの目的が、「難病の方の身体の動きを維持する」、「生活上ご自分でできることを維持する」、「低下した嚥下機能を改善する」、「外出機会が減り弱くなった足腰を強くする」など幅広く多



千駄の萱
ピーマンの肉詰めは、ひき肉と玉ねぎにピーマンを加わることになりがちで、ピーマンに新たな変化をもたらす。中身がほとんど無いピーマンだが、こんなに美味しくて感心してしまう。空っぽと言えは9月の政治報道だ。テレビ各局や全国紙では、民主党と自民党の代表・総裁の選挙候補者の「名前」と「顔」、「票の行方」などが取り上げられ盛り上がった。しかし肝心の国民によりそった政策が見えてこなかった。一方、野田政権は「TPPの参加」「消費税増税」の推進に力を入れる。そんなことされたら、様々な産業が打撃を受け、国民生活がますます困窮する。さらには「社会保障費の削減」と、核燃料サイクル事業などを残した「まやかしの『原発ゼロ』政策。腹も満たせないどころか命まで脅かすのか」「政策」の先にある結果や影響についてしっかりと向き合っている。大切なことが見えてくるのではないだろうか。政治は競馬や競艇などのレースと違って娯楽では無い。嫌がおうでも国民生活と直結している。ピーマン料理も政治もしっかり噛むと、美味しくいただけるはずだ(た